

Info&Report 編 「令和のとやま型学力向上プログラム」講演会

8月7日(月)、早月中学校ふれあいホールにて令和5年度「令和のとやま型学力向上プログラム」講演会を行いました。今年度は読解力について考えようと、東京学芸大学 教育学部 准教授の犬塚 美輪先生に「『分かる』とはどういうことか 心理学の観点から捉える理解と読解」と題して、分かることをどう捉えるか、読むことをどう教えるかを分かりやすい例えや事例をもとに教えていただきました。



講演の前半では、読解には様々な面とレベルがあり、どのレベルまでを求めるかを意識しなくてはならないことや、教師は簡単に思っているが、教科書を読むこと自体が案外難しいことであることを改めて考えさせられました。



また、後半には、プロセスを明示的に示すことや教師自身が読むときにやっていることを児童生徒の示すことが大切であることを学びました。参加された先生方からも「自分の発している指示や言葉をもう一度見直したい」「2学期から環境としての言葉を意識していきたい」との読解力向上に向けた前向きな感想が見られました。



滑川市では探究・科学教育推進の1つとして読解力向上を掲げています。【基礎学力向上部会】(センターたより7号参照)を中心に、今後の研究について話し合っています。先生方も、子供たちがどこでつまづいているか、どのような支援が有効かを、日々の実践の中で、考えていただければと思います。

事後アンケートより (72 人回答)



感想

学校での授業に生かせるだけでなく、自分の娘や息子にも生かせそう。普段の何気ない会話の中でどうやったら読むことが得意になるか...普段の会話が楽しみになった

曖昧な言葉で、教えたつもり伝えたつもりになっていることに気付かされました。具体的な言葉やプロセスを大切にしたい子供とも関わり方や授業づくりに取り組みたいです。

生徒が分かるために、教員が取り組んでいかなければならないことの視点を示していただきました。また、普段の会話を大切にしたり、言語環境を整えたりと、身近なことから見直したいと思います。今後は、表象を意識して展開できるよう授業改善していきたいと思います。ありがとうございました。

教師が話す言葉の影響の大きさに改めて気付かされた。プロセスのお手本になっているという意識をもって指導にあたれるように広めていきたい。

学校では、文で話すことをこれまでも意識していたが、今日の研修でその意義が分かり、説明できるようになったので、家庭での実践も勧められるようになった。最近、児童が自ら学ぶ、教師はプロンプターのような立場でという授業スタイルをよく学んでいたが、読解力に関しては、むしろ教えることから逃げていた面があったので、プロセスを明確に教えることの大切さを学んだ。

読み解く力について国語科に限らず教えていただけたことが有意義でした。また、具体的な手立ても2学期からすぐにできるものばかりで見通しをもつことができました。

授業の中で、しっかり読みなさい、ちゃんと〇〇しなさいと、言うことが確かに多いなと感じました。それだけでも、自分自身の普段使っている言葉を振り返るきっかけとなりました。読み方をどう教えるのか、プロセスを指導していくことが大切だと思いました。どの教科の学習においても、本文の読み方、グラフや図の読み方等を日々教えていく必要があると思いました。また、子供たちの「分かる」のために、理解したことを自分の言葉で説明したり、関連付けたりするような声かけをしていくとよいのだと思いました。2学期からの授業の中で意識して取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

分からない子供がどんなことで困っているか、困っている子供にどのような支援をしていく必要があるかなどについて、具体的に説明してくださり、とても分かりやすかったです。2学期からすぐに生かせる内容でした。ありがとうございました。